

第2回東大阪市上下水道事業経営審議会 議事概要

1. 開催概要

日 時	令和5年9月20日（水）14:00～15:45
場 所	東大阪市上下水道局 水道庁舎 2階 第1会議室
出席者	<u>委員</u> 笠原会長、中嶋副会長、小出委員、石田委員、松浦委員、覚道委員、梶原委員、森岡委員 <u>理事者</u> （上下水道局）賀川、木邨、蜂谷、神谷、西尾、亀井、安田、岡橋、大田、上山、樋口 <u>庶務</u> （上下水道局）熊野、巽、武田、佐藤、松岡、尾崎、下別府、伊藤、中島、塩田
次 第	1 開会 2 会議の公開及び傍聴者の入場 3 議事 （案件1）令和4年度東大阪市水道事業会計決算説明 （案件2）令和4年度東大阪市下水道事業会計決算説明 （案件3）令和4年度水道ビジョンの進捗報告 （案件4）令和4年度下水道事業経営戦略の進捗報告 4 閉会
配布資料	資料-1 出席者名簿 資料-2 令和4年度水道事業会計決算説明 資料-3 令和4年度下水道事業会計決算説明 資料-4 令和4年度水道ビジョンの進捗報告 資料-5 令和4年度下水道事業経営戦略の進捗報告

2. 会議内容（要旨）

案 件	主な意見・質問	回 答 等
令和4年度 東大阪市水 道事業会計 決算報告	<ul style="list-style-type: none"> 水道事業会計決算説明については了承した。 	
令和4年度 東大阪市下 水道事業会 計決算報告	<ul style="list-style-type: none"> 汚水処理原価が大幅に減少しており、今後も経営努力を続けてもらいたいと考える。どのような経営努力を実施したのかについて説明を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> 汚水処理原価が改善した要因としては経営戦略に基づき私道における排水設備工事に対して助成制度の見直しを実施した結果、令和4年度の汚水処理原価が改善したため。今後も経営戦略に基づいた経営健全化の取組みを着実に実施していく。
	<ul style="list-style-type: none"> （3頁）降った雨を下水道施設により強制的に河川に排水しなければならないと記載されているが、強制的に河川に排水しなくても自然に流れていく場合もあるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 通常の雨であれば低い位置にある河川等へ自然に排水されるが、市内全域での降雨やゲリラ豪雨などが発生した場合には大和川や淀川など高い位置にある河川への強制的な排水が理論上必要になる。
令和4年度 水道ビジョ ンの進捗報 告	<ul style="list-style-type: none"> （10頁）料金改定は、いつ実施するのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年の答申で、令和6年4月に実施する予定であったが、物価上昇等が急激であったことから料金改定時期を延期している。次回第3回審議会で、料金改定の実施時期について提示、説明予定である。
	<ul style="list-style-type: none"> （23頁）132件の漏水の原因は何か。また、漏水はどのような原因で発生するのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 口径の小さい給水管が漏水の原因であり、道路上で水が噴くような漏水ではない。地質条件や交通量、気温等が原因であると考えている。
	<ul style="list-style-type: none"> 管の更新は予定通り進んでいるという説明もあったが、132件も漏水があるのはなぜか。 	<ul style="list-style-type: none"> 配水管の更新に併せて、個人宅への給水管も水道メーターの1次側まで更新している。更新が追い付いていないということも件数が減らない原因と考えている。

案 件	主な意見・質問	回 答 等
	<ul style="list-style-type: none"> メーターから外は今回の件数に含まれていないのか。2次側で漏れていても個人で対応する必要があるということか。 	<ul style="list-style-type: none"> メーターの2次側は個人管になるので件数に含まれていない。修理に関しても個人負担になる。
	<ul style="list-style-type: none"> 土質や交通量等で市域のどのエリアが漏水のリスクが高いというのは把握しているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> パイプ自体の破損だけではなく、ジョイント部分の漏水もある。メーターボックス部分の漏水も件数の中で比率は高い。 (補足) 漏水のリスクが高いエリアの特定は難しい。古い水道管材料が使われている地域としては、西地区が多い。
	<ul style="list-style-type: none"> 漏水調査作業の人数が足りていないので件数が減らないのではないかと思うが、どうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 6年で市内全域を2巡する計画で漏水調査を実施している。限られた予算の中、広い市域を効率的に調査するため、このような計画としている。 近年 AI を使った漏水調査というものもあり、現在実施している音聴棒を用いた人的な漏水調査と組み合わせて、より効率的に漏水調査を実施できないか検討している。
	<ul style="list-style-type: none"> 更なる費用を掛けて漏水調査に取り組むことは、漏水量と有収率を加味した上で、費用対効果はどうなのか。(漏水調査と管路更新を)水道事業全体での費用対効果としての費用配分ということは考えられないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 漏水調査に多額の費用が掛かっていることも実態としてあるが、調査を実施せずに漏水を発見できない場合と調査を実施して漏水を修繕した場合を比較しても、漏水調査業務に効果はあると判断している。
	<ul style="list-style-type: none"> 地上に出ていない漏水は、放っておくと地下の地盤沈下に繋がりが、道路上では事故が発生する恐れがあると思う。費用対効果よりも、漏水は見つけた段階で修繕するという方針は取っているのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 二次災害、例えば陥没等の原因の一つにはなる。口径の大きい配水管の漏水については、多くが地上に現れるため、二次災害、陥没が起きるまでの間には対応できている。給水管の漏水と配水管の漏水で少し違いはある。
	<ul style="list-style-type: none"> (9頁)災害用の貯水槽はどのような仕組みで、いくつあるの 	<ul style="list-style-type: none"> 耐震性貯水槽という、地震が起こったときにでも水を一定プー

案 件	主な意見・質問	回 答 等
	<p>か。</p> <ul style="list-style-type: none"> （41 頁）口座割引について、仮に東大阪市で実施する場合、どのような仕組みになるのか。また、どれくらいの割引になるのか。 （39 頁）保有資産の有効活用について、主な課題のところは、可能な限り具体的に書いた方が分かりやすい。 全体の総括としては、いくつか達成が遅れている項目など指摘があったものの、一つ一つ具体的に細かく原因と今後の対応についてまとめられているようであった。審議会で出た意見を反映させて、1 年後の取組として出してほしい。 	<p>ルできる施設で、市内 6 か所にある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 口座割引に関しては、現在検討中である。（口座割引を導入している）他市の状況としては、口座引き落とし 1 回あたり 50 円、100 円割引のところが多い。口座割引を実施するにはシステム改修が必要であり、割り引いた分水道料金収入の減収となることから、費用対効果を考える必要がある。 諸課題については、隣地との境界の問題も原因にあるので、丁寧に書くのであれば、そのようなことが書けると思う。
令和 4 年度 下水道事業 経営戦略の 進捗報告	<ul style="list-style-type: none"> 現在の下水道事業の整備状況は。 河川氾濫や浸水被害等が他市でも多く発生しているなかで、東大阪市としてどのような浸水対策を実施しているのか。 雨量が多くなっている現状では、市民の身を守るためにはさらなる雨水貯留施設の整備の対応などを検討する必要はないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 下水道事業の整備状況は 99% である。 下水道事業として雨水貯留施設の建設を実施しており、寝屋川流域では一時間に 62.9mm の降雨が発生した場合でも浸水被害が発生しないことを目標に浸水対策事業を行っているが、目標の達成には時間がかかる見込みである。 最近の雨は気候変動等の影響により上限がない雨が降る状況となっており、施設等の整備による対応では限界を迎えている。市民の皆様には身を守るために

案 件	主な意見・質問	回 答 等
		最新の見地マップ等を活用していただければと考える。
	<ul style="list-style-type: none"> 東大阪市の若江に整備されている施設は、自然に降った雨は流れていかないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 東大阪市の若江に整備されている施設は地下河川と呼ばれ、地上河川等で対応できない部分については、最終的にそこへ流れていく。寝屋川南部の地下河川は最終的に木津川にポンプ施設を整備し排水する計画となっているが未整備であるため、現在は下水道からあふれた雨水の貯留施設として利用している。
	<ul style="list-style-type: none"> 最近、それらの施設が満杯になったことはあったのか 	<ul style="list-style-type: none"> 地上河川とは違い、見ることはできないが満杯になったことはある。 溜まった雨水については、大阪市の平野川等に排水している。下水道事業は一時間に 50mm の雨を基準に雨水対策を実施しており、それを超える雨水については河川事業での対応となる。
	<ul style="list-style-type: none"> 第二寝屋川に設置されているカメラの映像等は下水道事業として活用して雨水対策を実施しているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 河川管理者が河川氾濫を防ぐためにカメラ等を設置。気象庁や地方自治体等においても災害状態の確認等にカメラを利用している。